



雲の上にはいつも...



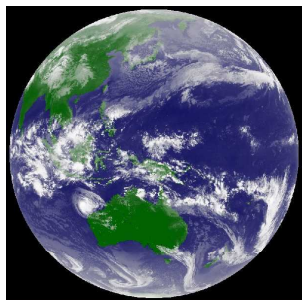
【No.7】藤城小学校 校長室より（不定期刊）



6月の地震の記憶が生々しいところに今回の大雨と、何やら今年の夏のはじまりは災害続きとなっています。犠牲になられた皆さまのご冥福をお祈りし、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。テレビに映る河川の氾濫や土砂崩れ等の映像が、7年前の東日本大震災の黒い津波の映像に重なって見えたのは私だけではないでしょう。

さて、先週は避難所開設に伴い、学校でのお泊まりが続きましたが、まだ薄暗く雨も落ちる早朝のグラウンドに人影を見つけてビックリ！こんなに朝早く、いったい...？

グラウンドの東斜面を点検してまわる地域の方の姿。毎年ここには花が描き出す言葉があります。昨年は『JAS(ジャス)』でしたが、今年は？よく見ると「すぎですふじしろ」の間に、『つながり』の四文字が...。夕方や休みの日だけでなく、こんな悪天候の早朝にも手入れをされる地域の方（学校運営協議会理事）の姿...。2,3か月後、秋の優しい陽光に照らされるキバナコスモスの花文字には、育ててくださった人々の物語があります。まさに文字どおりの『つながり』です。親と子、学校と家庭、先生と子ども、地域と家庭、人と花 など、私たちは実にさまざまなつながりの中で、それを意識することなく日常生活を過ごしています。



地球の直径とほぼ同じ？



この箱の中に？...

驚くべき 植物の根の長さ！人間は ... ？

ここで、にわかには信じられないお話をひとつ。アメリカのディットマーという学者がこんな実験をしました。縦横30cm、深さ56cmの木箱に砂を入れ、一粒のライ麦の種を蒔(ま)き、水だけを与えて育てます。4ヵ月ほどして穂が実ったあと、砂を丁寧に水洗いし、細かな根の一本一本、顕微鏡では根毛の長さまで測りました。その根の長さを全部足すと、いったいどれくらいの長さになると思いますか。500m？ 2km？ それとも10km...？ いえいえ、なんとその合計は11,200kmにも達したのです。（『ヒマワリはなぜ東を向くか』瀧本 敦著より）育てた木箱は、教室の机の上に載る大きさ。そしてその中には、地球の直径（約12,700km）に近い一本のライ麦の根。つまり、3本のライ麦の根で地球をほぼ一周できるということ。何だか頭がクラクラしそうです。



たった一本のライ麦でさえ、一人前に育つにはこんなに長い根によって支えられています。いわんや、われわれ人間においてをや、である。いったい、一人の人間はどれだけの根を伸ばし、多くの人やモノ、できごととつながりあい、支えられていることだろう。そんなことをイメージすると、元気が出てきますよね。

わたしたち人間の根って....

私たちが今ここに存在するためには、両親の二つの「いのち」が必要です。二代さかのぼると、それぞれに両親が必要なので、あわせて六つの「いのち」になります。そうしてどんどんさかのぼっていくと、とても多くの「いのち」のつながりが見えてきます。私たちも、一本のライ麦に負けないほどの「根」を持っているわけです。

私たちの「根」は、互いに支えあう形をしています。支えあう形をしている「根」を育むのは「思いやり」という栄養分です。私たちは「思いやり」の心をもって、それぞれの「根」を大切にしていかなければならないなあと思います。（学校教育目標だね^^）

「働き方改革推進における具体的取組」

「学校・幼稚園における働き方改革推進宣言」に関わる本校の具体的な取組については、以下の通りとします。

- ・教職員の時間外勤務を減らすため、仕事の進め方の点検や見直しを職場全体で進める。また、機を見て学校の施錠時間を早める。
（基本となる教職員の勤務時間は午前8時30分～午後5時）
- ・情報の共有化をいっそう進めることにより、仕事の効率化を図る。
- ・長期休業中の会議や研修はできるだけ連続するように設定し、年次休暇等を取得しやすい環境作りを進める。
- ・総合育成支援員等を効果的に配置し活用することで、教職員の職務負担の平均化と効率化を図る。